

ダイバーシティ&インクルージョンを学ぶ高校

北海道平取高等学校 学級数3 (校長 鈴木 浩)

□ 実践の概要

本校は、今年度より、「ダイバーシティ（多様性）&インクルージョン（共生・協働）を学ぶ高校」という教育理念を掲げている。教育理念を実現するための取組の一つとして、学校設定科目「アイヌ文化」を開設し、地元平取町や近隣地域の教育資源を生かした、多様な学びを実践している。

1 実践の目的

アイヌ文化を総合的に学びながら地域の課題を見付け、自己との関わりの中で、よりよく課題を解決する力を身に付けるとともに、「多様性」と「共生・協働」を学び、これからの社会で生きる力を育む。

2 実践内容

(1) 実施計画

本校の魅力化・特色化を進めるため、地域との強固な連携のもと、地域の特色を生かしたカリキュラムを編成する。その一つとして、平取町の有形無形のアイヌ文化を地域の教育資源として教育課程に系統的に取り入れた学校設定科目「アイヌ文化」を開設した。「アイヌ文化」は、Ⅰ、Ⅱ、Ⅲを付した科目で目標や内容を段階的に構成し、各学年1単位ずつ設置することとしており、初年度となる今年度は「アイヌ文化Ⅰ」を開講した。

(2) 取組の具体

「アイヌ文化Ⅰ」では、アイヌ文化の理解を目指し、平取町在住のアイヌ文化伝承者などを講師として、言語、工芸、自然、歴史等を学ぶこととし、町内の各種博物館、資料館等の見学をはじめ、アイヌ語学習、アイヌ文化に関わる講話の実施、木彫り学習等を実施している。また、本校は、WWL（ワールドワイドラーニング）コンソーシアム構築支援事業に係る北海道広域ALネットワーク連携校として、拠点校である北海学園札幌高等学校とアイヌ文化について交流している。他にも、カナダ・ケベック州にあるビショップス大学の学生と職員との交流を行い、相互の文化について理解を深めている。

(3) 取組後の点検・評価、工夫改善

成果としては、「アイヌ文化Ⅰ」の学習を進める中で、生徒及び教員の地域理解が深まり、平取町への興味・関心が高まったことである。一方、これまで実践例のない科目を新設し、手探りの状態で実施していることから、来年度以降に開講する「アイヌ文化Ⅱ・Ⅲ」との内容の系統的なつながりを含め、カリキュラムの編成について、関係機関と連携を図りながら準備を進めていくことが課題である。

(4) 改善後の取組

今年度「アイヌ文化Ⅰ」で実施したハワイ視察研修について、現地ハワイの先住民族の生活の様子や歴史等についてより深く学ぶことができるよう、1年生の希望者全員を対象とした「ハワイ海外研修」に拡大する予定である。本校生徒は、アイヌ文化に関するプレゼンテーションやアイヌ舞踏、アイヌ語を披露し、多様性への理解を深めながら共生・協働社会の実現に向けた学習を実施する。他にも、北海道大学をはじめとした道内外の大学の研究者等による講演等を実施するとともに、引き続き、ビショップス大学との交流を実施する等、本校の教育理念である「ダイバーシティ&インクルージョンを学ぶ高校」の実現に向けた取組を継続する。



【木彫り学習の様子
（アイヌ文化Ⅰ）】



【アイヌ舞踏披露の様子
（ハワイ視察研修）】



【ビショップス大学との
交流の様子】

3 実践のポイント

- ・ 町教委や地元のアイヌ文化伝承者等、地域との連携・協働した取組が、生徒の地域理解の深まりや興味・関心の高まりにつながったこと。
- ・ 本取組で先住民族の文化を学ぶことにより、生徒の多様性や異文化等への理解が深まったこと。